



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第13号 (H22.6.30)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



なぜ？ どうして？

— 自然科学探究「科学の謎に迫ろう！」 —

6月23日(水)に自然科学探究「科学の謎に迫ろう！」第2弾が行われました。様々な実験を通して、生徒たちの興味・関心を高めたり、疑問を持たせたりすることが目的です。実験は3つの会場で行われ、「大気圧に関わる実験」「屈折に関わる実験」「物が燃えるのってどういうことだろう」という実験内容でした。

<実験の流れ>

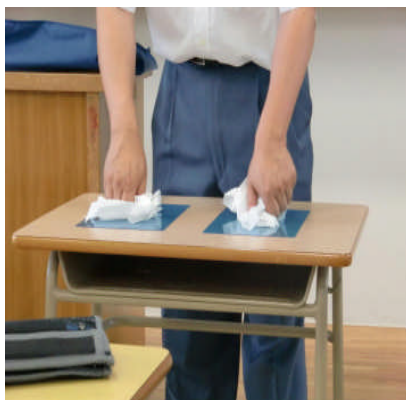
「実験内容の説明」→「予想を立たせる」→「自分なりの考えをまとめる」→次会場へ移動



「風船は、どう落ちる？」



<袋をびんから取りだそう>



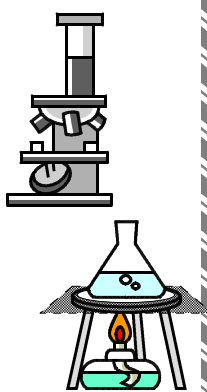
<テーブルは持ち上がるだろうか>



<どんなふうに見えるだろうか>



<スチールウールが燃えた後に、二酸化炭素はできるか>
<燃えているスチールウールに瓶をかぶせるとどうなるか>



子どもたちに身につけさせたい習慣 IV

日記を書き、自分を振り返る習慣

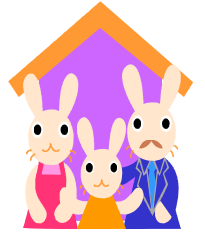
4番目の習慣は「日記を書き、自分を振り返る習慣」です。普段から自分の経験、考えたことを蓄積しておくことが大事です。例えば、今、毎日の学習・生活の記録に一日の反省などを書いていますが内容を充実させることが、自分を振り返り、さらに文章を書くことにも慣れ、見えない作文力につながっていくと思います。是非、試みてはどうでしょうか。

『お手伝いは、家庭における社会体験の絶好の機会』

最近の若い者は、「周囲への気配りがない」とか、「気が利かない」と聞きます。また、「仕事の段取りがわるいなあ」とも耳にすることがあります。そして、「感謝の気持ちを表さない」など厳しい意見もあります。これらのことは、最近の若い者ということではなく、昔の若い者も同じようなことがあったのではないのでしょうか。

今までの生活と異なる場面で活動するときに、人は、過去の経験から行動を決めることが多くあります。子どものときに社会体験を積んでおく必要があるのではないのでしょうか。

家庭における「お手伝い」は、社会体験の絶好の機会です。子どもは、家庭という社会の中で役割を与えられ、その役割を果たしていく。「お手伝い」は、他者への感謝の気持ちや思いやりを育み、仕事の進め方を知るなどその成果は大きいものがあると考えます。食事を作ってもらったことが当たり前だと思っていた事が、「お手伝い」を通して「あり難い」ことだと変容することに期待したいものです。中学生になると、「勉強が忙しい」とか「部活動で疲れたとか」いろんな理由でお手伝いを免除にしようとします。家族の一員として自分の役割を与えてください。そうすることが、本人にとって、今後必ずプラスになることは間違いありません。



第61回都城地区中学校総合体育大会開催

期 日：7月3日(土)～7月5日(月)

陸上競技：7月13日(火) (市営陸上競技場)

水泳競技：7月16日(金) (沖水中学校)

軟式野球：都城運動公園野球場他

サッカー：姫城講演運動広場、西中学校

ソフトテニス：都城運動公園庭球場

バレーボール：山之口体育館、小松原中他

バスケットボール：早水公園体育文化センター他

卓 球：都城運動公園体育館

剣 道：三股町武道館

柔 道：都城運動公園武道館

弓 道：早水公園体育文化センター弓道場

ソフトボール：母智丘多目的広場

バドミントン：妻ヶ丘中学校体育館

<本校からの参加者>

柔 道：渡邊美波さん  がんばれ！

<注意事項>

- ① 生徒の参加及び応援
 - ・生徒の参加は、登録メンバー及び3年生部員のみとする。(鳴り物の応援禁止)
- ② 保護者の応援
 - ・生徒の送迎のみとし、保護者の応援や観戦は自粛する。

— 成し遂げる喜び —

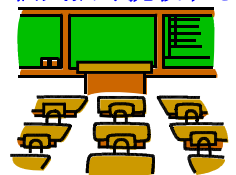
期末テストを控えています。この3か月を振り返ってみてください。皆さんにとっては小学校時代に体験していないこと、つまり初めての体験をこの1年間は繰り返していきます。是非、自らの成長と1・2年後の充実した活動に向けての仲間づくりをしてほしいと思います。今の気持ちを大切に、その心意気を生活面や学習面において遺憾なく発揮し、学校生活の充実を図ってほしいものです。

真剣に取り組むことで、苦手なことが得意なことになることはよくあります。「食わず嫌い」にならないようにしてほしいと思います。私には、尊敬する数学の先生がいます。現在退職されていますが、その先生は、中学時代大変数学が苦手で困っていたそうです。「ではなぜ、数学の先生になったのですか？」と尋ねたら、その先生は「数学の苦手な私が数学の先生になると、数学が苦手な生徒の気持ちがよく分かるから、生徒のつまづきやすいところがよく分かるから」とおっしゃいました。だから、この先生は数学の先生になるために、数学の勉強を必死に頑張ったそうです。私は、わずか2年間のつき合いましたが、私にとっては影響力のあった先生です。

「苦手なことが自分を成長させる原動力になる」、数学の先生になるという目標が、苦手を克服し生涯の生活の糧ともなった例です。生徒の皆さんが、秘められた可能性を発見したり、開拓したりするのはまだまだこれから

です。そのためには、**自分の力を決めつけるのではなく、さまざまな活動に自主的に根気強く挑戦することが本当に大事だと思います。**

次の目標は6月30日～7月2日の期末テストだと思います。目標を設定し、授業を大切に、計画的に勉強してください。そして、成し遂げた後の達成感や充実感を味わいたいものです。



連絡：7月8日(木)から1-A教室のエアコンが稼働します！

